

りべら (Libella) はラテン語でトンボの意味です。あおぞら財団はトンボが飛び交うまちの再生を願って活動しています。

# りべら

2014.5

132

号

りべら  
2014.5  
132  
号

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)  
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階

## 特集:公害資料館連携 わくわく広げよう公害資料館の“わ”

公害資料館連携フォーラムin新潟…1

公害資料館連携ネットワークの可能性 清水万由子…3

全国にある公害資料館を紹介します…5

記録で見る大気汚染と裁判 倉敷と四日市の資料整理をしました…7

復興まちづくりの現場…4

かりるところ・かえすところ

忙中一筆 松村暢彦…8

中国の環境NGOとともに取り組む グリーン・サプライチェーン円卓会議報告…9

中国の環境NGOメンバー 日本で公害・環境問題の研修…10

西淀川記憶あつめ隊:樋口和恵さん…11

ぶらりとゆるりと西淀川めぐり パン大好き!…12

町工場の夕日…12

あおぞら広場…14

大阪市立西淀川区図書館にて「おもろいわ西淀川アワード2013」を展示(2013.4.1)

にしよどがわ防災まちづくり通信VOL.3「西淀川の災害記憶をまなぶ」ができました。西淀川区の過去の災害について28名の方に聞き取り調査した結果を、絵や写真とともに、とりまとめました。あおぞら財団で配布していますので、ぜひ、手にとってみてください。



呼吸ケア・リハビリテーションを実践まじえて学びました。医療従事者向け ぜん息・COPD患者の呼吸ケア・リハビリテーション講習会(2014.2.15)

あおぞら  
フォトギャラリー

### ●連続講座 人にやさしい公共交通

日時:5月10日(土)『人にやさしい公共交通 総論編』  
5月31日(土)『子育てと移動環境』  
6月14日(土)『元気いきいき 高齢者の足〜免許返還後の交通施策〜』  
7月 5日(土)『交通バリアフリーの到達点と課題』  
10:00~12:00(全回とも)  
場所:あおぞらビル3階グリーンルーム  
参加費:500円(各回)

お知らせ

### 【大阪でタンDEM自転車を楽しむ会】

#### ●タンDEM自転車走行会

日時:5月24日(土)11:30~13:00(受付11:00から)  
集合:あおぞらビル1F JR東西線「御幣島」駅11番出口スグ  
走行場所:大野川緑陰道路  
参加費:1,000円(会員は無料。当日入会することができます)  
定員:20人(スーカ:後ろに乗る人含む)

### ●あおぞら財団の“今”大解剖!!~会員のつどい2014~

日時:6月1日(日) 午前10:00開始予定  
会場:あおぞらビル3階グリーンルーム  
内容:活動発表、意見交換、ランチ交流会

### ●【1F】地域交流スペース「あおぞらイコバ」

会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。  
午前:1,000円/午後:1,300円/夜間:1,300円/全日:3,000円

### ●【5F】西淀川・公害と環境資料館(エコミュージズ)

西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。  
開館日 月曜日と金曜日(10:00~17:00)/要事前電話予約  
●いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

## あおぞら財団とは

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978~1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。  
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階(TEL)06-6475-8885  
(FAX)06-6478-5885 電子メール:webmaster@aozora.or.jp http://aozora.or.jp/



環境省の職員研修を受け入れました。公害の地域再生の為に必要な事は何かを考えてもらいました。(2014.2.26-27)

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

●賛助会員 会員の方には機関紙「りべら」などをお送りします。  
【年会費】個人:年一口5,000円、  
学生:年一口2,000円、  
法人・団体:年一口10,000円

●会費・寄附の振込先  
\*郵便振替口座 00960-9-124893  
加入者名:あおぞら財団  
\*三菱東京UFJ銀行 歌島橋支店  
普通 3764689 口座名義:あおぞら財団賛助会員

りそな銀行の専用の口座は閉鎖いたしました。ご不便をおかけしますが、ご了承ください。

会員・寄附募集



- JR東西線御幣島駅①出口すぐ
- 阪神電車姫島駅より徒歩10分
- JR神戸線塚本駅より徒歩15分



公害資料館連携のきっかけは、新潟水俣病資料館の塚田真弘館長からの呼びかけでした。公害資料館の連携する機会を持ちたいとの願いをきき、2013年度の環境省地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業として行うこととなりました。これまで公害資料館の関係者が一堂に会する機会がなかっただけに、このフォーラムはお互いの経験を語る、熱を帯びた催しとなりました。 (林)

- 日 時:2013年12月7日8日 ●参加者:94名
- 場 所:新潟市万代市民会館 ●主 催:公害資料館ネットワーク

## フォーラムの様子

フォーラムでは、公害資料館の関係者だけでなく、公害被害者や研究者、行政関係者等幅広い属性を持った人が集まりました。ここでは、基調講演と分科会の一部を紹介します。



## 基調講演

基調講演で染川香澄氏は、展示を一方通行のものではなく、利用者のコミュニケーションを深める手段として位置づけられました。その上で、「明確な目的に基づいた情報伝達の一手段であり、言語、文学などと同様のコミュニケーションの一形態である」(『博物館学事典』)展示の方法として、ハンズ・オン(実践的な展示=体験型・参加型)の有効性を示されました。また、ハンズ・オン展示は、マインズ・オン、つまり利用者の心を動かす展示へとつなげていく必要があると述べられました。

## 分科会

1日目後半と2日目前半は分科会に分かれて議論を深めました。各々のテーマについてお互いの経験を持ち寄って行われた議論は爽りの多いものになったようです。ここでは、その中から分科会4で報告した黒田かをりさんのコメントを紹介します。

### 分科会

#### CSRと公害教育

4

黒田 かをりさん(CSOネットワーク事務局長)  
ISO26000の視点からいうと、あらゆる組織が社会的責任を担うことになる。資料館や自治体を中心に社会的責任を考えることができる。また、多様なステークホルダーや他の資料館との連携も大切になってくる。コミュニティ参画については多様な立場を乗り越えてつながっていくことが重要だが、つなぎ役が必要となる。その時に、行政でも企業でもない、非営利組織が中心にあると参画を促しやすい。

## フォーラムスケジュール

12月7日 .....

午後1 基調講演 「学び続けるきっかけとなる展示  
-ハンズ・オンとマインズ・オン」  
(染川香澄氏 ハンズ・オン プランニング代表)

午後2 分科会 セッションⅠ

- 分科会1 参加型展示のあり方を考える
- 分科会2 公害発生地における地域再生について
- 分科会3 公害資料の収集・保存・整理の現状と課題
- 分科会4 CSRと公害教育

夜 交流会

12月8日 .....

午前 分科会 セッションⅡ

- 分科会1 参加型展示のあり方を考える
- 分科会2 今日の日本における地域再生について
- 分科会3 公害資料を活用した環境教育にむけて
- 分科会5 公害資料館の運営マネジメント

午後 全体会



染川香澄さん

## 参加者の感想から

- 今回だけの試みで終わるのではなく、ネットワークの発展と活用による問題解決に繋がればよいと思いました。
- 足元の発想から始まり、決め付けずに工夫してみる。当たって砕ける的こわがらず行動する勇気が大事かと。

## 公害資料館ネットワーク会議を開きました



フォーラムの開始前に、13の組織が集まって会議を行いました。年に1度集まって公害資料館で情報共有していくことの重要性を確認することができました。



### 〈確認したこと〉(一部)

- これまで各地の公害資料館の間で情報共有ができていなかった。そのためどのようなことが行われているのかわからないことが多かった。まずは互いの情報を共有することで、自分たちの活動の参考にしていきたい。今後も互いの情報共有を積極的に行っていきたい。
- 一概に情報共有と言っても、行政と民間では情報のあり方や扱いが違う。民間はスピード感があり身軽だが、行政は手続き等の問題もあり時間を必要とする。また担当者が異動するという事情がある。こうした状況がありつつも、情報共有が必要であるとの認識では一致している。
- 外部からは公害問題の全体像が見えないという声が聞かれる。ネットワーク化する一方で、外への情報発信が求められている。
- 一番大切にしたいことは、このネットワークが公害病患者の皆さんの支援につながっていくことである。

## 公害資料館ネットワーク団体

- 尼崎南部再生研究室(あまけん)
- イタイイタイ病対策協議会 清流会館
- NPO法人名古屋南部地域再生センター(なごやあおぞらセンター)
- 一般社団法人あがのがわ環境学舎
- 一般社団法人水俣病センター 相思社 水俣病歴史考証館
- 公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
- 公益財団法人水島地域環境再生財団(みずしま財団)
- 公害被害者総行動実行委員会
- 国立水俣病総合研究センター 水俣病情報センター
- 富山県立イタイイタイ病資料館
- 新潟県立環境と人間のふれあい館-新潟水俣病資料館-
- 水俣市立水俣病資料館
- 四日市市環境保全課 四日市公害と環境未来館準備室



公害資料館連携フォーラムにて

公害を伝える／学ぶことの意味を考えさせられました。伝える／学ぶ双方にとって重要なのは、正しい「公害の教訓」などというものが、どこかに転がっているわけではないということ。むしろ正解を一つに決めずに、世代を超えて問い続けること自体に意味があると思います。公害経験を伝えるようにする人々の苦悩を、公害を学ぶ人々に対して積極的に開いていく、つまり一緒に考えることが重要だと思います。公害資料館が、資料や患者さんが語りかけるものを聞く立場であるだけでなく、様々な立場・世代の人と公害を語り合う場でもあったら、

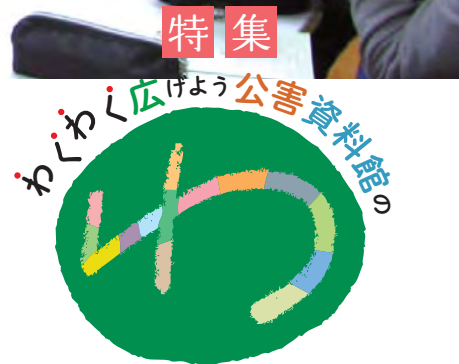
「公害の教訓」はおのずと人の心に刻まれていくのではないでしょう。フォーラムの基調講演でお話いただいた参加型展示は、これからの公害資料館の一つのあり方だと思います。

**普遍的な問いを考える**

また、全国から公害資料館の関係者が集まったことで、一口に公害と言っても、一つとして同じものはないということ。これを改めて認識できました。こうした場でこそ、互いの違いを感じたり共感したりしながら、公害を起こす原因は何なのか、どうしたら公害を繰り返さない社会になるのかという普遍的な問いを考えることが可能になるのだと思います。普遍的な問いに答えるには、学術研究の力も必要ですが、最終的には市民が自分なりの答えを持つことが重要です。公害資料館のネットワークが、公害を伝える人たちが自身の学びの場となることを期待しています。



公害反対運動の資料を詠んで西淀川公害を学ぶ(2013.12.13)



# 公害資料館連携 ネットワークの可能性

龍谷大学政策学部講師

清水 万由子

**公害を教える新米教員として**

新米の大学教員として、環境政策や環境社会学を教えています。講義ではできるだけ時間をかけて公害について話していただきます。ゼミでおおぞら財団を訪問して西淀川公害について学びます。彼らに公害の本質を伝えられたらどうか、この授業が公害を繰り返さない社会をつくる一歩になったらどうか、と自問しますが、確信を得るにはほど遠いのが現状です。

**公害という経験を伝える**

公害と学ぶことの難しさ

公害という経験を伝える／学ぶことの難しさは、どこにあるのでしょうか。一つには、学生たちにとって、公害は同時代性を持たないということ。す。あちこちで空気や水や土が汚染され、多くの人が苦しみます。

んだことは、すでに歴史上の出来事であり、あるいはどこか遠いところで起こっている、実感の持てない事実なのです。しかし環境問題のリスクはむしろ高まっており、起こりうる公害への想像力をはたらかせるためには、まずは過去に学ぶことでしょうか。公害の経験について、学校教育の中で提供されるべきだと思いますが、少なくとも私が普段接する学生の多くにその経験はありません。授業後には「水俣病やイタイイタイ病という言葉は知っていたけれど、その内容は初めて知った」同じ関西に住んでいるのに、西淀川公害のことを聞いたことがなかった」といった感想が寄せられます。

実際、私自身も公害を身近に経験したわけではありません。偶然にもおおぞら財団に出会ったことで西淀川公害について知る機会を得て、患者さんなど関係者の証言、裁判資料、そして西淀川という空間(場)を持つ「本物」の力に強く引きつけられました。公害によって失われたもの、裁判に向かった患者さんの思い、そして公害を繰り返さない社会には何が必要かなど、持てる限りの想像力を働かせて描く語っているにすぎません。

**一緒に考えることが重要**

今回の新潟での公害資料館連携フォーラムは、公害を伝える／学ぶための社会的基盤づくりとして、大きな意義のある場だったと思います。公害を伝えるようにする人々の苦悩に触れ、



東日本大震災から3年以上が経過し現地ニーズは変化しています。瓦礫の片付け等「体」を主に使うことから、根本的な課題解決に向けて技能や知恵、特技など「頭」を使いながら関わることが求められています。

◆釜援隊協議会(釜石リージョナルコーディネーター)  
〒026-8686 岩手県釜石市只越町3-9-13 釜石市役所第5庁舎1階  
http://kamaentai.org/ Tel 0193-22-8600 / Fax 0193-55-6699



ツアー体験。郷土食をいただき、地域の暮らしに耳を傾ける。

釜援隊の役割の一つが、外部連携です。例えば、首都圏の企業内の有志から釜石支援の要望がありました。事前打合せで参加者の特性と地域課題をすり合わせて、プログラムを構成。私の派遣先の三陸ひとつなぎ自然学校のツアーを実際に体験しフィードバック。今回のプログラムを四季を通じて関係性を広げていくという、こちらが全く考えていなかったアイデアをもちょうことができました。コーディネートしていく上で、地域外の力が地域に根付くには現地組織の存在は重要です。今は、被災地とそうでない地域との関係から始まっていますが、今後は震災という枠を越えて、地域間がそれぞれの特性を活かし合える関係性を構築していくことが重要です。

釜援隊協議会 黍原 豊 (きひはら ゆたか)

水のことが学べる設備があります

1 新潟県立環境と人間のふれあい館  
-新潟水俣病資料館



資料  
展示

950-3324新潟市北区前新田字新々団乙364-7  
TEL 025-387-1450 <http://fureaikan.net/>

土壌復元がくわしくわかります

2 富山県立イタイイタイ病資料館



展示

939-8224富山市友杉151番地(とやま健康パーク内)  
TEL 076-428-0830 <http://itaitai-dis.jp/>

被害者が見つかった資料館

3 清流会館  
(イタイイタイ病)



展示

939-2723富山県富山市婦中町萩島684  
TEL 076-465-4811

住民運動資料の宝庫

4 立教大学共生社会研究センター  
(宇井純公害問題資料、千葉川鉄訴資料など)



資料

171-8501東京都豊島区西池袋3-34-1 TEL 03-3985-4457  
<http://www.rikkyo.ac.jp/research/laboratory/RCCCS/>

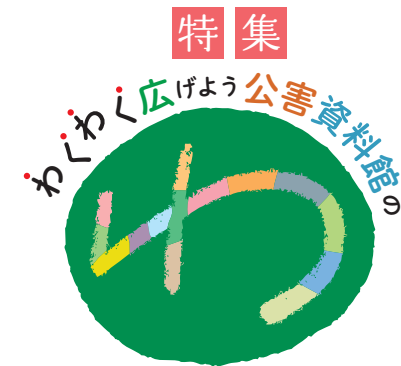
資料の専門家が集まっています

5 法政大学大原社会問題研究所  
環境アーカイブズ  
(薬害スモン資料、薬害サリドマイド事件関連資料など)



資料

194-0211東京都町田市相原町4342法政大学総合棟5F  
TEL 042-783-2098 <http://k-archives.ws.hosei.ac.jp/xp/>



特集

# 全国にある公害資料館を紹介します

公害の経験を伝えたいという被害者の思いが形になり、公害の資料や展示を見ることができ、施設は各地にあります。一方で、公害の資料が整理されず、資料公開が進まない地域もあります。また万全な状況とはいえない公害資料館ですが、連携することで各地の取り組みが活性化し、公害を学ぶ体制を整えたいと願っています。ぜひ訪問してみてください。●



資料 資料が開覧できます

展示 展示で公害を学習できます

科学と産業の図書館

6 神奈川県立川崎図書館  
(川崎公害裁判訴訟記録資料)



資料

210-0011川崎市川崎区富士見2-1-4 TEL 044-233-4537  
<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>

2014年度末に四日市公害と環境未来館OPEN予定

7 四日市市環境学習センター  
四日市公害資料室



資料  
展示

510-0093三重県四日市市本町9-8本町プラザ4階  
TEL 059-354-8430 <http://www.eco-yokkaichi.com/>

裁判資料をWEBで公開しています

8 あおぞら財団付属  
西淀川・公害と環境資料館(エコミュージズ)



資料  
展示

555-0013大阪府西淀川区千舟1丁目1番1号  
あおぞらビル4階 TEL 06-6475-8885  
<http://www.aozora.or.jp/ecomuse/>

行政機関が民間資料を公開しています

9 尼崎市立地域研究史料館  
(尼崎大気汚染公害訴訟、43号線訴訟資料など)



資料

660-0881尼崎市昭和通2-7-16  
尼崎市総合文化センター7階 TEL 06-6482-5246  
<http://www.archives.city.amagasaki.hyogo.jp/>

フィールドワークの受け入れをしています

10 みずしま財団(財団法人水島地域環境再生財団)  
(倉敷公害裁判資料)



資料

712-8034岡山県倉敷市水島西栄町13-2  
TEL 086-440-0121 <http://www.mizushima-f.or.jp/>

近くに高炉が保存されています

11 北九州環境ミュージアム



展示

805-0071北九州市八幡東区東田2丁目2-6  
TEL 093-663-6751 <http://eco-museum.com/>

労働組合の資料もあります

12 熊本学国大学水俣学研究センター  
(水俣学現地研究センター)



資料

867-0065熊本県水俣市浜町2-7-13 TEL 0966-63-5030  
<http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/database/>

語り部さんの話が聞けます

13 水俣市立水俣病資料館



資料  
展示

867-0055熊本県水俣市明神町53番地  
TEL 0966-62-2621 <http://www.minamata195651.jp/>

水銀について学べます

14 環境省国立水俣病総合研究センター  
水俣病情報センター



資料  
展示

867-0055熊本県水俣市明神町55-10  
TEL 0966-69-2400 <http://www.nim.go.jp/archives/index.html>

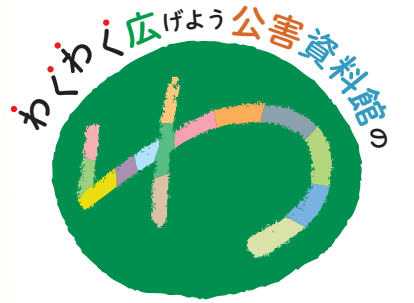
実物展示が多くあります

15 水俣病センター相思社  
水俣病歴史考証館



資料  
展示

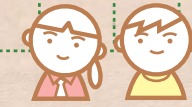
867-0034熊本県水俣市袋34 TEL 0966-63-5800  
<http://www.soshisha.org/jp/>



# 記録で見る大気汚染と裁判

## 倉敷と四日市の資料整理をしました

### 記録で見ると 大気汚染と 裁判



2011年度から取り組んできた倉敷と四日市の公害資料の整理がひと段落しました。整理した資料は、裁判資料と住民運動資料です。目録を作成し、公開できる資料をPDF化して、ホームページで閲覧できるようにしました。倉敷と四日市は工場からの大気汚染に挑んだ公害裁判です。四日市は4大公害裁判の一つの裁判であり、倉敷は四日市の裁判より後に提訴された裁判ですが、新産業都市として発展する中で、地元が悪影響を及ぼした工場の排煙の実態と医療機関の努力がわかります。2014年6月ごろには環境再生保全機構のホームページで公開します。ぜひ、活用してください。

記録で見る大気汚染と裁判 <http://nihon-taikiosen.erca.go.jp/taiki/>

#### 四日市

四日市再生「公害市民塾」



電子化された「記録・公害」

すごい質と量の作業をこなしていただきありがとうございます。四日市公害の資料の根幹をなす「裁判」と「記録」が丁寧に保存されました。特に澤井資料「記録・公害」は他に類例のない希有なものです。判決後40年以上が経ったいま、改めて資料保存の重要性を認識しています。ようやく四日市に公害資料館が開設されようとしていますが、リンクさせることも必要かと思えます。そして何よりも広く共有し「活用」されることが今後の大きな課題となります。「反公害」に向けて少しでも寄与できることを願ってやみません。



小学生に四日市公害の授業をする野田之一さん、澤井余志郎さん、山本勝治さん

#### 倉敷水島

みずしま財団



整理した資料が活用された患者会の記念誌

倉敷にとってこの事業の意義は資料整理のノウハウを学ぶことができたこと、倉敷公害訴訟に関する資料の公開ができたこと、そして他地域との比較により倉敷の持つ資料の特徴を知ることができたことが挙げられます。今後については、さらに資料の整理をすすめて公開と活用へとつなげていく計画です。資料整理の早速の成果は、患者さんの運動の頑張り全体として明らかにすることを主題に作成された記念誌「倉敷市公害患者と家族の会40周年を迎えて」の発行に生かされました。その中で当時の写真やニュースレター等が患者さんの手記を視覚的に補足しています。

私にとっては自身の生きてきた時代を振り返り、学ぶ機会となっています。指定地域解除反対運動や裁判当時の様子を生き生きと語って下さる倉敷市公害患者と家族の会の太田さんの話を聞き、その証言と資料が合致したときの喜びや歴史を後世へ伝える立場にいることの喜び等を感じながら資料に触れています。

(資料整理スタッフ森久美)



太田映知さん(右)と森久美さん

## 忙中 一筆

### 実践者としての松村暢彦の源流

交通環境教育の教材作りや道路環境市民塾の立ち上げなど、あおぞら財団には欠かせないブレインの一人である松村暢彦先生のエッセイです。



松村 暢彦 (まつむらのぶひこ)

大阪大学で助手、准教授を19年間つとめるなかで、あおぞら財団と一緒に環境に関する教材の開発、エコドライブ事業に関わってきた。4月から愛媛大学大学院教授。

#### 大学人の基礎

あおぞら財団は私の実践者としての大学人の基礎をつくってくれました。大学人は、研究者、教育者、実践者の三つの側面を持っています。一般的には、研究室にこもって実験をしたり、本を読んだりしている

研究者が思い起こされるでしょう。それに大学生を対象に講義や演習を行い、これからの社会を形成していく人を送り出す教育者も重要な役割です。さらに、研究や教育を通じて蓄積した知見を社会に活かす実践者としても期待されています。これまで実践者として

の関係性を地域と私でつくるのが大切になります。この実践者としての松村暢彦の基礎が、あおぞら財団とのいろいろな活動でつくられました。

#### 患者さんの話を聞いて

私と財団とのつきあいは、1999年に傘木宏夫さん(元財団研究主任)と大野川緑陰道の評価をしたことにはじまります。学生時代からの指導教員だった新田保次先生から財団の話は聞いていたのですが、それまで積極的に関わることはありませんでした。緑陰道路の評価も学生の修論指導、いわゆる研究者としての関わりが強かったと思います。ところが傘木さんに、軽い気持ちで「西淀川を現場とした環境教育を考えた」というお願いをしたのが

きっかけで大きく運命が変わっていききました。傘木さんの声かけで、当学区内の教員をさせていただいた天野先生、西口先生、松井先生との研究会がはじまりました。その初期に、松井先生が実践されていた西淀川高校での公害を伝える授業を参観させていただきました。患者さんの話を聞いて、ただただ涙がでてきて、胸の中で自分のいろいろな感情がほとばしって、自分の生き方が大きく揺さぶられました。そうならざるを得ない社会への憤りや悲しみと同時に現実を伝えようとする人の大きさ、教諭の教える力の凄まじさ、無色透明な環境しか扱っていない研究者の小ささなど色々と考えさせられるのか、何を伝えようとしてい



フードマイレージ買物ゲーム

フードマイレージ買物ゲームHP <http://www.aozora.or.jp/foodmileage/>



SCPブロック

しての大学人は、行政の審議会等の委員をつとめるのが代表的でしたが、最近では、地域社会と一緒に新たな自発的な活動を通じて、社会を変えていく機会も増えてきました。この実践者というのは、「教える」「研究対象」という地域と相対する関係ではなく、互いに尊重しあい、一緒に活動を始めることができ

SCPブロック

フードマイレージ買物ゲーム

# 中国の環境NGOとともに取り組む グリーン・サプライチェーン 円卓会議 報告

日中韓の環境情報共有サイト「ENVIROASIA」を運営している東アジア環境情報発信所。インターネットを活用したNPOのつながりを生かして中国での企業のグリーン経営を迫る取組みを展開しています。



東アジア環境情報発信所  
廣瀬 稔也

(特活)東アジア環境情報発信所 <http://www.eden-j.org/>

大学准教授の相川泰から、「中国におけるグリーン・サプライチェーンづくりに向けて」として、「グリーン・サプライチェーンガイドライン骨子」が提起された。

このガイドラインは、大きく(1)企業内部で対応してほしいこと、(2)サプライヤーに働きかけてほしいことの二部構成となっており、GCAのデータベースの活用やサプライヤーへのモニタリングと情報公開などを求める内容となっている。

丁寧な情報公開を求めることが重要である。「サプライヤー管理とはいえ、対等な企業同士の取引で、従属関係にならないため、アプローチの仕方が難しい」「よりよい取り組みをする企業を表彰してはどうか」「自社製品の回収・処理についてはなじまないのではないか」などの忌憚のない意見が出され、活発な議論が行われた。

## 【グリーン・サプライチェーン】

サプライチェーンとは、原料の段階から製品やサービスが消費者の手に届くまでの全プロセスの繋がりをさす。グリーン・サプライチェーンとは、大手メーカーのサプライチェーンにおいて、汚染企業からの部品調達がない状況を作す。日本の大手家電メーカーなどが、中国で製品を生産する時、その調達部品を生産する現地企業などが、現地法令に違反する汚染を引き起こしていた事例がある。

この円卓会議の議論を踏まえ、東アジア環境情報発信所では、ガイドラインを修正し、日本企業に対して、サプライチェーンのグリーン化に向けた取り組みをよびかけていく。

2014年2月26日、東京にてグリーン・サプライチェーン円卓会議(主催:東アジア環境情報発信所)が開催された。この円卓会議は、東アジア環境情報発信所が2011年度から3年計画で進めてきた「中国における企業のグリーン・サプライチェーン“モデル事業”のアウトプットとなる、「グリーン・サプライチェーンガイドライン」について、中国の環境NGOネットワーク「緑色選択連盟(Green Choice Alliance/GCA)」と日本のIT家電メーカー、アパレル企業が意見交換を行う目的で開催された。GCAが過去に発表してきた各種のレポートの対象となっている企業として、IT家電メーカーからは、パナソニック、キヤノン、セイコーエプソン、アパレル企業からはミズノの4社にご参加いただいた。

**日本企業に求めるもの**  
前回の円卓会議は、中国・北京での開催だったこともあり、会議の冒頭、GCAの中心メンバーである李力さん(環友科学技術研究センター代表)から、あらためてGCAの取り組みと日本企業へ求めるものを報告してもらった。GCAの活動によって、アッブルなどが改善に動いたほか、これまでに1000を超える企業がGCAと対話の機会をもち、改善後の第三者監査を170回すませたという。そして日本企業に対しては、①自社の中国工場で汚染防止をきちんと行うこと、②有名なブランド企業は、サプライヤー管理を強化すること、③発生した問題に対して、逃げ隠れせずに、積極的に取り組むことが求められた。この他、深刻化する大気汚染に対して、青空路線図という新しいプロ

**プロジェクトの紹介もあった。**  
**アパレル企業による環境汚染**  
また同じくGCAの幹事団体の一つ、公衆・環境研究センター(IPE)の李傑さんから、中国におけるアパレル企業のサプライチェーンの動向について報告があった。中国では新たに国によって汚染排出に関する新基準が発表されたことで、多くの企業は排出基準を超過することとなったという。アパレル企業に対してはIT家電メーカーと同様の働きかけを行っており、一部のブランドが改善の姿勢を見せ始めたが、対象としている48社の平均評価点は、100点満点で98.4点とまだまだ改善の余地は大きいという。

**重要 情報公開を求めることが**  
その後、東アジア環境情報発信所の副代表理事/鳥取環境

## ～頑張る、頑張る、頑張る通す、環境保護の道～ 中国の環境NGOメンバー 日本で公害・環境問題の研修

環境省H25度大気汚染経験等  
情報発信業務



メンバー:李力氏(環友科学技術研究センター主任)、羅峰氏(弁護士、北連軒弁護士事務所、緑色漢江)、夏軍氏(弁護士、北京中諮弁護士事務所)、方応君氏(緑色江南公衆環境センター)、呂妍氏(北京天下漢教育センター)、張清氏(天津緑色之友)

本年1月、中国から環境NGOメンバー6人が来日し、日本の公害・環境問題の経験や現状を知るための研修を受けました。これは、近年、中国をはじめとするアジア諸国での環境汚染、公害問題が深刻化する中、日本の公害経験を伝えようと、あおぞら財団が取り組んでいる国際交流活動の一つです。



研修最終日、公害環境デーで発言するメンバーたち

西淀川区では大気汚染の被害者の生の声を聞き、尼崎港や国道43号、西淀川高校などのフィールドワーク、日本の弁護士との交流、大阪府の環境測定現場や京エコロジーセンターなどの見学をおこないました。また、滞在期間中には中国の環境NGOや弁護士による環境

活動を我々が知る機会として日中環境問題サロン「中国の環境NGO活動を聴く」を連続講座で開催しました。

帰国後、メンバー全員より心のこもったレポートが届きました。その一部を紹介します。

「頑張り続けるという信念と専門家集団は、彼らが勝利を勝ち取る事が出来た最も重要な要素だと思う」

「専門家が専門的な仕事をすると同時に、それをNGO活動に浸透させている」

「環境保護において、学びは最も重要であり、継続する事を覚えて初めてきれいな山川、青空や白い雲が見えてくる」

「謙虚さと成功、信念と戦略の間でどのようにバランスをとるのかを日本の弁護士は教えてくれた」

今後も、中国と日本で、私たち草の根レベルの交流を続けていきたいと思えます。

# 西淀川記憶あつめ隊

Vol.9

西淀川区は繰り返し大きな水害に見舞われてきました。災害時は多くの困難が生じ、様々な人々の助け合いが起ります。今回は、第二室戸台風の助け合いをきっかけにして結婚された樋口和恵さんのお話です。

2014年1月20日  
聞き取り



樋口和恵さん

## 樋口 和恵さん

会社で、今も竹島に工場があります。和恵さんは、母、弟妹3人と共に御幣島の長屋の二階に住んでいました。第二室戸台風が大阪に上陸した9月16日(土)、和恵さんは工場に仕事に行っていました。通常時は土曜日も一日仕事でしたが、台風が来るということでお昼頃一斉に退社しました。

同じ会社の樋口さん(7歳年上の24歳。後の旦那さん)は大野百島に住んでいて方向が一緒だということ、家まで送ってくれたそうです。その頃は特に親しいわけでもなく、帰宅する方向が一緒なので、心配して送ってくれたそうです。



国道2号付近の浸水

樋口さんが家の入口まで送ってきてくれたところ、「パン」と二階で音が聞こえました。急いで二階に上がってみると、東側の台所の小さな窓が風で割れていました。そこで樋口さんが手際よく割れた窓に板をうちつけてくれたそうです。その直後、風の向きが変わり、大きな窓も割れそうになったそうです。窓が割れてしまうと、家の中に風が舞い込んで屋根が飛んでしまいます。そこで、樋口さんが素早く畳をあげて窓にたてかけて抑えてくれました。樋口さんは「母と弟には押し入れに入るように」といい、残りの4人で畳を抑えて風が収まるのを待っていました。

◆浸水のために帰宅ができません  
夜が暮れて風がおさまり、樋口さんは自宅に帰ろうとしましたが、階段の途中まで浸水していました。仕方ないので、そのまま2日間ぐらい和恵さん宅にいたそうです。台風の翌日か翌々日におにぎりをお届けにきてくれたそうです。和恵さんと樋口さんが窓から顔を出すと、職場の人が「樋口さん、どうしてここにいるのか」と驚いたそうです。樋口さんは水の腰の高さぐらいまでひいた時に、水に浸かりながら大野の家まで帰りました。樋口さんの実家も床上浸水して大変だったようです。

◆災害が取り持つ縁  
第二室戸台風で助けに来てくれたのをきっかけに、樋口さんと和恵さん宅は家ぐるみのお付き合いが始まりました。台風の件があるため、和恵さんの母も樋口さんをたよりにしていたそうです。第二室戸台風から5年後に2人は結婚したそうです。

樋口さんは小さいときから台風に慣れており、どのように台風に対処すればよいかよく知っていたそうです。だから、和恵さん宅で機械に行動することができたのではないかとのことです。災害への対処方法をよく知っていることは大事です。そしてそれはいざという時に自分だけでなく周りの人を助けることができますし、それをきっかけに生涯に繋がる縁に発展することもあるんだなと感動しました。

谷内久美子  
(日本学術振興会特別研究員)

※この活動は公益財団法人JR西日本あんしん社会財団の助成でおこなっています。

【第二室戸台風による西淀川の被害】  
第2室戸台風は、昭和36年(1961年)9月16日に大阪を襲った台風です。大阪湾の高潮0.P+4.1メートルに達し、市内は西大阪を中心に全半壊流失1,726戸、死者6人、負傷者682人におよびました。西淀川区では神崎川が氾濫して大和田・出来島・御幣島では家屋のほとんどが床上浸水の被害を受けました。  
災害に備えるためには、過去の災害の体験を後世に伝えていく必要があります。そのため、現在、あおぞら財団では、ジェーン台風、第二室戸台風の記憶の掘り起こしをしています。お話を聞かせていただける方は、お気軽にあおぞら財団(06-6475-8885)までご連絡ください。

(イラスト:とりやまひろこ)

## ぶらりとゆるりと西淀川めぐり



アンパン

パン大好き!

おひるごはんや、残業の時にパンを買いに行きます。私のおすすめパン屋さんです。林

第10回

## BOURANGERIE 夢屋

フランスパンが人気のパン屋さん。私は石焼というゴマとさつまいもが入っているパンが好きです。クリーム

パンのクリームは自家製であふれんばかり。フランスパンの焼きあがり時間は11:20と14:30。土曜日は15:30にも焼きあがります(予約は5日前10本まで)。野里商店街の中にあります。



フランスパン



## 明日香菓舗

和菓子屋と洋菓子屋とパン屋さんが一緒になったお店。パンは懐かしい素朴な味がします。おすすめは塩パン。噛めば噛むほど甘いパンです。ラッピングのデザインがレトロで味わい深いです。国道2号の三井住友銀行の並びです。



塩パン

所 西淀川区御幣島2-2-14  
休 日  
営 7:30-19:00  
☎ 06-6471-0382

## べえかりい風

福祉施設が運営しているパン屋さんです。おすすめはメロンパンとアンパン、カレーパン。餡はお店で炊いているので、お豆の味がしておいしいです。クッキーもおすすめ。姫島公園の向かい側です。



所 西淀川区姫島5-3-16  
休 土日祝  
営 10:00-16:00  
☎ 06-6477-8717

## 第3回 町工場の夕日 ~御幣島のひなやん編~



西淀生まれの西淀育ち「ひなやん」のコラムです

幼い頃の記憶は、時系列バラバラのパズルのように途切れ途切れだ。小学2年くらいの時、

「父の日」に近所の市場のお店で「ポマード」をドキドキしながら選んだことは、スポットライト風に

に思い出す。数百円の品物だったが、父は喜んで毎朝大事に使ってくれていた。自分の前髪の分け目

の位置をわたしに決めさせてくれ、その髪型で出勤する姿が内心誇らしかった。わたしの母親が圧倒的に(口が)強いからと思

うが、夫婦喧嘩はあまり見なかったが、幼児の頃、母親と入浴中(当時は五右衛門風呂だった)に「おとうちゃんと別れる、どっ

ちに行く?」と尋ねられた記憶が、薪のニオイと共にある。少しオテンバなわたしは、ずっと母親が苦手で、やがて超反抗的な娘

へと成長するのだが、このとき図らずも「おかあちゃん(といく)」と答えてしまったのである。一生の不覚である。現在の「子ども

支援活動」でも、こんな子どもの心理の奥深さへの着目が、自分の役にたっているかも。本音でも理屈でもな

く、小さな子どもは空気を読むのだ。目の前のすっぱんぼんの母親が待つ答えが、ふとわかってしまう。

その心の様子も。その後、日常的にボロカスに言われている父(本人は楽しそうだったが)の方が可哀

想やん、絶対おとうちゃんについていく、と思いつきながら育ったことを、紙上でカミングアウトしておこう。



西川 日奈子 (NPO法人西淀川子どもセンター代表)

## ありがとうございます

(2013年12月～2014年3月 敬称略・順不同)

### ●入会

西谷 祐亮 小平 清子  
池田 理知子 伊藤 卓次  
大野 智彦 井関 和彦

### ●お助けボランティア

山下 晴美 片岡 直樹  
岡崎 久女 櫻井 次郎  
左成 志朗 川崎 美榮子  
山澤 彩野 鷺坂 長美  
北泊 謙太郎

### ●寄附・寄贈者

植村 和弘 西口 勲  
(株)あゆみ印刷デザイン 松岡 弘之  
岩橋 智恵子 片岡 法子  
清水 万由子 谷合 佳代子  
飯橋 敦子 澤井 余志郎  
中島 晃 嶋田 綾子  
酒井 健一 水俣フォーラム  
(株)マルモット (特活)関西国際交流団体協議会  
友澤 悠季 味方 慎一  
浅井 真二 櫻井 次郎  
栄原 永遠男 ラジオ大阪  
南 聡一郎

## ●緑道散歩

大野川緑陰道路の憩いの花壇に菜の花が咲きました。



## りべら No.132 2014年5月号(季刊1日、年4回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団) あおぞら財団  
編集人:林 美帆 Facebookページ  
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階 「いいね!」を  
TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885 押してくださいね。  
http://aozora.or.jp/ webmaster@aozora.or.jp  
デザイン:(株)パード・デザインハウス  
定価:一部400円(郵送料込)  
会員の購読料は会費に含まれています。  
本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



## ●職員退団・入団

【退団のご挨拶】

相澤 翔平

みなさまにご支援、ご協力いただき、大阪人1年生、  
社会人1年生だった私ですが、あおぞら財団で3年間働くことが  
できました。3年間はあっという間で、あおぞら財団でどれだけのことがやれた  
のか、正直全くわかりません。でも、これから新しい場所で、新しい仕事をする  
中で、ここで培った経験をふりかえり、自分の血肉にしていくなだろうなあん  
て思っています。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

【入団のご挨拶】

田代 優秋(たしろ ゆうしゅう)

はじめまして、4月から研究員として着任しました。これまでの研究は、身近な  
水辺やそこに暮らす魚を利用しながら守られる社会づくりでした。西淀川にき  
ての野望は、釣った魚で、趣味の干物作りをして、日本酒で一杯やることです!

栗本 知子(くりもと ともこ)

新人ですが藤江事務局長と同じ歳です。これまでの人  
権問題に取り組んできた経験を活かし、参加者の主体  
性を引き出す教育プログラムを工夫したいです。よろし  
くお願いします!



## ●西淀川菜の花プロジェクト ～エコでつながる西淀川～

【廃油回収量】  
**総合計21,839ℓ**  
(2009年7月から2013年3月まで)

2013年	6,858ℓ
2012年	6,088ℓ
2011年	3,919ℓ
2010年	2,383ℓ
2009年	593ℓ(7月開始)

現在西淀川区内外55  
箇所で、廃油を回収し  
ています。  
回収団体募集中。  
詳しくはあおぞら財団  
まで。

回収拠点の  
のぼりが目印

西淀川菜の花プロジェクトブログ <http://nanohanany.blogspot.jp/>

## ●表紙説明

西淀川図書館にあおぞら財団が展示できるコーナーができました。  
現在は「おもろいわ西淀川」のフェイスブックで披露していた写真を  
展示しています。西淀川にも大学があるのですよ。しかも「お水の大  
学」。フェイスブックもぜひ覗いて下さい。  
<https://www.facebook.com/omoroiva>

## ●スタッフツイッター 編集後記

林 今年から合気道を始めました。うまく受け身がとれなくて打  
ち身や筋肉痛で苦しむ日々です。先日、公害患者さんたちと  
体力測定をしましたが、80代の患者さんに負けてしまいました。  
ガーン。合気道でうまく体が使えない理由がわかった  
気がします。今年は身体を鍛えて低体力を解消するぞ!



ディサービスセンター

# あおぞら苑

2006年10月1日にディサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。  
西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさま  
の思いが、ひとつの形になったのがディサービスセンターあおぞら苑です。  
公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみな  
さまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるように  
との思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。

あおぞら御膳

あおぞらの湯

【お問い合わせ】  
TEL : 06-6475-0111 FAX : 06-6475-0114  
URL : <http://aozoraen.com/>  
運 営 : NPO法人西淀川福祉・健康ネットワーク

◆あおぞら苑(事業所番号 2771001076)  
〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号  
開所曜日:月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数:1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771001407)  
〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号  
開所曜日:月曜日～金曜日 利用人数:1日20人

# 油は捨てずにリサイクル!!!

## TEL 06-6411-3457

### 浜田化学株式会社

## いつも、ご協力有難うございます。

## 〈広告募集〉企業・団体・個人の皆さま

あおぞら財団の活動周知のため  
「りべら」発行部数増にご協力ください。

「りべら」は、あおぞら財団が取り組む環境活動やまちの情報を伝える機関紙として、年4回(季刊)発行し、あおぞら財団会員様をはじめ、公共施設・店舗・各種施設にて配布しています。あおぞら財団の活動拠点である大阪市西淀川区を中心に、環境問題や地域再生に取り組む様々な方々に登場いただき、環境の取り組みやまちづくり活動の輪をつなぎ、広げていきたいと思ひます。現在、より多くの方に読んでいただけるよう、発行部数増をめざしています。(1500部→3000部)。あおぞら財団の活動趣旨に賛同いただき、ともに環境活動に取り組んでいただける企業・団体・個人の皆さまから「広告費」という形での協賛をお願いできればと思ひます。いただいた資金は、本「りべら」の紙面の充実・印刷費として活用させていただきます。あわせて定期購読、会員も募集中です。どうぞ、ご協力お願いします。

【りべら広告掲載費】  
中面1/9頁:1万円/回  
中面1/3頁:3万円/回  
中面 全面:9万円/回  
お問合せ先:あおぞら財団まで  
TEL06-6475-8885